

前置詞に見るイベリア半島西部の時間と空間

Preposiciones: el tiempo y el espacio en la zona occidental de la península ibérica

黒沢直俊

Naotoshi KUROSAWA

0. はじめに

イベリア半島の西側地域に分布するポルトガル語、アストゥリアス語¹⁾、ガリシア語を中心に前置詞の概要や頻度などを概観する。

1. ポルトガル語

1.1 基本的な前置詞

ポルトガル語の基本的な前置詞は以下である。

a 「～で、～へ」	entre 「～のあいだに」
ante 「～の前に」	exceto 「～を除いて」
após 「～の後で」	para 「～へ、～のために」
até 「～まで」	perante 「～の前に」
com 「～とともに、～によって」	por 「～によって、～のあたりを」
conforme 「～に従って」	salvo 「～を除いて」
contra 「～に対して」	segundo 「～に従って」
consoante 「～に従って」	sem 「～なしに」
de 「～の、～について、～から」	senão 「～を除いて」
desde 「～以来」	sob 「～のしたに」
durante 「～のあいだに」	sobre 「～について、～の上に」
em 「～で、～について」	trás 「～の後ろに」

1.2 形態的な特徴

前置詞のなかで特に重要な a, de, em, por は、冠詞や指示語、不定語などが後続すると、結合形になる²⁾。

a (定冠詞や a で始まる指示詞と) :

a + o, os, a, as → ao, aos, à, às ; a + aquele, aqueles, aquela... → àquele, àqueles, àquela...

de (定冠詞と不定冠詞、母音で始まる指示詞、不定代名詞、主語代名詞、副詞と) :

de + o, os, a, as → do, dos, da, das ; de + um, uns, uma, umas → dum, duns, duma, dumas

de + este..., algum..., outro..., ele..., aqui... → deste..., dalgum..., doutro..., dele..., daqui...

em (定冠詞と不定冠詞、母音で始まる指示詞、不定代名詞、主語代名詞) :

em + o, os, a, as → no, nos, na, nas ; em + um, uns, uma, umas → num, nuns, numa, numas

em + este..., algum..., outro..., ele... → neste..., nalgum..., noutro..., nele...

por (定冠詞と) :

por + o, os, a, as → pelo, pelos, pela, pelas

1.3 その他の特徴

前置詞に関連して次のような特徴が指摘されることがある。

- ポルトガルのポルトガル語では前置詞の a と para には使い分けがある。ブラジルでは方向を表す前置詞として em が用いられることがある。

Vou a casa. 「家に行く」 / Vou para casa. 「家に帰る」 cf. Vou em casa. 「家に帰る／行く」(ブラジル)

- até は、定冠詞付きの名詞が次に来るとポルトガル語では até a ... と前置詞を重複させるのが普通であるが、ブラジルでは até のみを用いる。

- 前置詞を重複させる用法については Carrasco González 2003 は「スペイン語では por entre と para con を除いて前置詞の重複用法は非難されるが、ポルトガル語では前置詞のすべての組み合わせが正しく、そしてよく用いられる」(p.161) と述べ、"por entre, para com, até junto de, de sobre" の例を挙げている。

- Carrasco González 2003 は、「ポルトガル語の前置詞句はスペイン語よりはるかに豊かである」(p.160)

とし、例えばスペイン語の *debajo de* はポルトガル語の *abaixo de, debaixo de, em baixo de* に対応するなどの例を挙げている。

- ・動詞の直接補語の前に前置詞の *a* は普通用いられない。ただし、繰り返しの用いられる強勢形の目的語代名詞や例外的な文体ではこの限りではない： *Vi-o a ele na praça.* 「広場で彼を見た」 *Venceram os bons aos maus.* 「よき者たちが悪者たちに勝利した」

2. アストゥリアス語

アストゥリアス語は、スペイン北部のアストゥリアス自治州 Principado de Asturias 内のナヴィア川 Río Navía 以西を除く地域を中心に話されるが、言語規範が社会的に確立しているとは言えない状況である。書き言葉やテレビ・ラジオなどのマスコミ、大学、公共機関などでの比較的改まった場で用いられるアストゥリアス語は、90年代にかけて、アストゥリアス言語アカデミー Academia de la Llingua Asturiana が確立した規範に基づいている。これは、主に州都のオヴィエド Oviedo やシジョン Xixón³⁾ などの大都市がある中央沿岸部の方言を基礎に、方言的なバリエーションをいくつか認めたものからなっている。アストゥリアス語内部の方言差には著しい場合があり、相互理解が不可能なこともある。実際の言語運用では、各地の方言色や語彙や表現面でのスペイン語の影響が強い。標準的な規範は場面によっては人工的な印象を与えることもある。自称名は *asturianu* または *bable* で、公用語化を要求する運動があるが、法的には保護対象言語とされる。

2.1 基本的な前置詞

アストゥリアス語の基本的な前置詞は以下である。音声的、形態的なバリエーションがある。

<i>a</i>	「～で、～へ」	<i>enantes</i>	「～のまえに」
<i>ante</i>	「～の前に」	<i>fasta ~ hasta</i>	「～に向かって」
<i>baxo</i>	「～の下に」	<i>hacia ~ haza</i>	「～まで」
<i>cabo ~ co</i>	「～の側で」	<i>pa</i>	「～へ、～のために」
<i>con</i>	「～とともに、～で」	<i>per</i>	「～のあたりを」
<i>contra</i>	「～に対して、～に向かって」	<i>por</i>	「～によって」
<i>de</i>	「～の、～について、～から」	<i>según</i>	「～に従って」
<i>dempués ~ depués</i>	「～のあと」	<i>sin ~ ensin</i>	「～なしで」
<i>dende</i>	「～以来」	<i>so</i>	「～の下に」
<i>en</i>	「～で、～について、～へ」	<i>sobre ~ sobro</i>	「～について、～の上に」
<i>ente</i>	「～のあいだに」	<i>tres</i>	「～の後ろに」

他に、二次的な前置詞 *preposiciones impropies* として以下が挙げられる場合がある。

<i>acabante ~ acabantes</i>	「～するとすぐに」(常に不定詞を従える)	<i>menos</i>	「～を除いて」
<i>metá</i>	「～の真ん中で」	<i>metanes ~ metanos</i>	「～の真ん中で」
		<i>sacante ~ sacantes</i>	「～を除いて」

2.2 形態的な特徴

冠詞や指示詞、不定語などが後続すると次のような結合形になる。⁴⁾

	<i>el</i>	<i>la</i>	<i>lo</i>	<i>los</i>	<i>les</i>
<i>a</i>	<i>al</i>				
<i>de</i>	<i>del</i>				
<i>pa</i>	<i>pal</i>				
<i>so</i>	<i>sol</i>				
<i>con</i>	<i>col</i>	<i>cola</i>	<i>colo</i>	<i>colos</i>	<i>coles</i>
<i>en</i>	<i>nel</i>	<i>na</i>	<i>no</i>	<i>nos</i>	<i>nes</i>
<i>per</i>	<i>pel</i>	<i>pela</i>	<i>pelo</i>	<i>pelos</i>	<i>peles</i>
<i>por</i>	<i>pol</i>	<i>pola</i>	<i>polo</i>	<i>polos</i>	<i>poles</i>

en + un, ún, unu, una, uno, unos, unes → *nun, nún, nunu, nuna, nuno, nunos, nunes*

en + él, elli, ella, ello, ellos, elles → *nél, nelli, nella, nello, nellos, nelles*

en + esti, esta, ... aquel, aquelli, ...aquelles → *nesti, nesta, ... naquel, naquelli, ...naquelles*

per + equí, ehí, ...ende, ...elli, ...embaxo → *pequí, perhí, ... pende, ... pelli, ... pembaxo*

a, en : 母音で始まる語と : *de + aquél, ésti .. Uviéu* → *d'aquéi, d'ésti ... d'Uviéu*

2.3 その他の特徴

前置詞に関連して以下のような特徴が指摘されることがある。

- ・アストゥリアス語では前置詞の重複は普通である：
 - pa en : Merca lleche *pa en casa*. 家用に牛乳を買う
 - ensin : Quantayá que tamos *ensin* agua. 長いことわれわれは水なしだ
 - an (<a + en): Voi *an* ca Xuan. 私はシュアンの家に行く
 - pente (<per + ente): Metiöse *pente'l* maíz. トウモロコシ畑のなかに入り込んだ
 - pante (<pa + ente): Eses casadielles son *pante* los tres. このカサディエリャ (菓子) は3人のためだ
 - tres de : El balón cayó *tres de* la muria. そのボールは塀の後ろに落ちた
- ・アストゥリアス語では前置詞 *de* は、曖昧さや伝達上の支障がない限り、省略することが出来る (しなくてもよい)：
 - ca Antón = ca d'Antón アントンの家 chaqueta pana = chaqueta de pana 布の上着
 - sacu pataques = sacu de pataques ジャガイモ一袋 la casa la muyer = la casa de la muyer その女の子の家
 - la casa'l cura Mieres ミエレスの神父の家
 - = la casa del cura Mieres, la casa'l cura de Mieres, la casa del cura de Mieres
- ・標準アストゥリアス語では前置詞 *per* と *por* には使い分けがある。これは中央方言と東部方言に残っている対立が規範に取り入れられたもので、*per* は時間と空間の広がりを表し、*por* は行為者、理由、価格、目的などを表す。

3. ガリシア語

3.1 基本的な前置詞

- ・本来の前置詞：a, ante (= perante), após, até ~ ata, con, contra, de, desde ~ dende, en, entre, para, por, sen, so, sobre, tras
- ・その他の前置詞：agás 「～を除いて」、fóra, baixo, consoante, conforme, durante, exclusive, excepto, exceptuante, inclusive, mediante, menos, salvante, salvo, segundo, senón, tirante...

3.2 形態的な特徴

定冠詞や不定冠詞との結合形には以下のようなものがある。

	o	a	os	as	un	unha	uns	unhas
a	ó (ao)	á	ós(aos)	ás	-	-	-	-
de	do	da	dos	das	dun	dunha	duns	dunhas
en	no	na	nos	nas	nun	nunha	nuns	nunhas
con	co	coa	cos	coas	cun	cunha	cuns	cunhas
por	polo	pola	polos	polas	-	-	-	-
tras	tralo	trala	tralos	tralas	-	-	-	-

en + el, ela, eles,elas → nel, nela, neles, nelas

en + este, esta,... aquel, ...aquelas → neste, nesta,... naquel, naquelas

de + el, ela, eles,elas → del, dela, deles, delas

de + este, esta,... aquel, ...aquelas → deste, desta,... daquel, daquelas...

3.3 その他の特徴

前置詞に関連して以下のような特徴が指摘されることがある。

- ・前置詞 *en* は動詞 *ir* とともに方向を表し、目的地での一時的滞在を示す。
 - Vai en Betanzos. 彼はベタンソスに行く (= Diríxese a Betanzos e está por un certo tempo en Betanzos.)
 - Vai na misa. 彼はミサに行く (= Diríxese á igrexa e está asistindo á misa.)
- ・前置詞 *en* は動詞 *ir* の現在形、半過去、未来で用いられるが、点過去では用いない。
 - Vai na Coruña. 彼はコルーニャに行く Ía na feira. 市に行こうとしていた
 - Írá na romaría. 巡礼に行くだろう *Foi en Vigo. *ビーゴに行った
- ・*deica* (=até), *agás*, *cas* など口語的な前置詞が存在する：
 - Deica mañá. 朝まで Agás o pai, estaban todos. 父以外みんながいた

4. 前置詞と頻度

Teyssier 2004, p.279 は主要ロマンス語の前置詞の相対頻度を挙げている。本稿での記述に合わせ、言語の順番と表の体裁を変えて以下に示す。⁵⁾

ポルトガル語	スペイン語	フランス語	イタリア語	ルーマニア語
de 34%	de 46%	de 43%	di 38% da 8% (計 46%)	de 36% din 8% (計 44%)
a 30%	a 19%	à 22%	a 23%	la 13%
em 15%	en 17%	en 10% dans 8% (計 18%)	in 16%	în 23%
para 9% por 6% (計 15%)	para 4% por 7% (計 11%)	pour 9% par 4% (計 13%)	per 10%	pentru 4% pe 10% (計 14%)
com 6%	con 7%	avec 4%	con 5%	cu 2%

ポルトガル語、スペイン語、フランス語、イタリア語、アストゥリアス語について前置詞の頻度を比較的最近の研究から調べ、次ページの別表 1 を作成した⁶⁾。これに基づいて、上の Teyssier の表と比較可能な形に数値を、各言語の主要前置詞数語全体のなかでの生起割合に計算し直したものが以下である。なお、次ページの別表 2 は前置詞句の頻度と生起数である。

ポルトガル語	アストゥリアス語	スペイン語	フランス語	イタリア語
de 42,7%	de 25,0%	de 38,7%	de 48,2%	di 40,0% da 10,1% (計 50,1%)
a 15,6%	a 23,9%	a 23,6%	à 16,9%	a 24,7%
em 19,9%	en 22,8%	en 17,6%	en 7,5% dans 9,9% (計 17,4%)	in 10,5%
para 9,6% por 5,5% (計 15,1%)	pa 8,1% por 7,2% per 3,0% (計 18,3%)	para 5,9% por 6,2% (計 12,1%)	pour 10,0% par 2,9% (計 12,9%)	per 9,4%
com 6,7%	con 9,9%	con 8,0%	avec 4,6%	con 5,8%

ポルトガル語、スペイン語、フランス語、イタリア語について Teyssier と今回の調査に基づく数値を比較すると、ポルトガル語の de と a に関するものを除いて、基本的には同じ傾向を示している。このポルトガル語の数値については、確証はないものの、処理の仕方に原因がある可能性は否定出来ない⁷⁾。一方、アストゥリアス語で前置詞 de の割合が 25% と比較的低いのは、前に述べたように、この言語では前置詞 de の省略が普通であるからである。全体傾向として、ポルトガル語、スペイン語、アストゥリアス語はそれぞれの前置詞の数値の分布に近い。そこからかなり乱暴に、このアストゥリアス語の de について推定すると、前置詞 de は 3 分の 1 くらいがアストゥリアス語では省略されると言えるのではないだろうか。この de の省略は書き言葉でも話し言葉でも頻繁に遭遇する現象である。また、別表 1 を見ると、ポルトガル語では前置詞の em が a よりも頻度が高く、さらにスペイン語やアストゥリアス語に比べて para の頻度も相対的に高いことがわかる。ところが、アストゥリアス語で比較的頻度が高い tres に対応するポルトガル語の trás は頻度が低い。これは、別表 2 の前置詞句で比較的良好に使われる atrás de があることで説明される。

5. 通時的変化

13 世紀から 15 世紀にかけての中世ポルトガル語のテキストでの前置詞の生起数とテキスト全体のなかでの生起割合を数値化してみた⁸⁾。

<i>Demanda do Santo Graal</i> 13~14世紀 古仏語からの訳で写本は 14~15 世紀 (約 236000 生起語形数)	<i>Horto de Esposo</i> 15 世紀 ポルトガル語で執筆 (約 157800 生起語形数)	<i>História do nobre Vespasiano</i> 1496 に刊行の印刷本 スペイン語からの訳 (17607 生起語形数)
de 8477 3,59%	de 8129 5,15%	de 620 3,52%
em 4355 1,85%	em 2464 1,56%	em 255 1,45%
a 8544 3,62% (3000~4000 1,27%~1,69%) *	a 4516 2,86% (1500~2000 0,95%~1,27%) *	a 434 2,46% *
por 2678 1,13%	por 621 0,04%	por 188 1,07%
com 883 0,37%	com 1128 0,71%	com 104 0,59%
ante 557 0,24%	ante 228 0,14%	ante 1 0,006%
contra 291 0,12%	contra 99 0,06%	contra 6 0,03%
ata(204)~ até(51) 255 0,11%	ata 83 0,05%	ate (1)~atee (21) 22 0,12%
sobre 182 0,08%	sobre 157 0,10%	sobre 9 0,05%
per 169 0,07%	per 1207 0,76%	per 26 0,15%
para (144)~ pera(21) 165 0,07%	para (16)~ pera (689) 705 0,45%	para(5)~pera(55) 60 0,34%
entre (52)~ antre(71) 123 0,05%	entre(4)~ antre (128) 132 0,08%	ãtre 3 0,02%
des 72 0,031%	des 18 0,011%	des 9 0,05%
após 50 0,02%	apos 1 0,0006%	segundo 2 0,01%
segundo 21 0,008%		
tras 4 0,002%		

(*a の数値は定冠詞女性単数形を含む。テキストでの定冠詞の男性単数、複数の生起数から推量した前置詞の数を括弧内に示してみた。)

前置詞の基本的な語形は現代語と大きな変化はないが、バリエントのあるものについて触れると、現代語の até 「~まで」はスペイン語の hasta と同源でポルトガル語の古形は ata である。ata から até への変化にはいくつかの説があるが、決定的と言えるようなものはない。現代語で頻度の高い para は、ポルトガル語では語源的に per + a で説明され、中世語には pera と para のバリエントがある。スペイン語のような pora はポルトガルでは通常見られない。また、ある段階まで中世語では per と por の使い分けがあったとされているが、15 世紀あたりになると実際のテキストを見て用法のちがいを取り出すのはむずかしい。para は por と contra の用法を浸食する形で広まっていったものと考えられる。現代語の entre の中世語のバリエントは antre と ontre であるが、これらのテキストでは entre と antre しか現れなかった。des は現代語の desde である。

さらに、バリエントを捨象し、各テキストでの前置詞を頻度順にし、現代語と対照させてみた。

<i>Demanda</i>	<i>Horto</i>	<i>Vespasiano</i>	現代語
a 3,62%*	de 5,15%	de 3,52%	de 4,64%
de 3,59%	a 2,86%*	a 2,46%	em 2,16%
em 1,85%	em 1,56%	em 1,45%	a 1,69%
por 1,13%	per 0,76%	por 1,07%	para 1,04%
com 0,37%	com 0,71%	com 0,59%	com 0,73%
ante 0,24%	pera 0,45%	pera 0,34%	por 0,60%
contra 0,12%	ante 0,14%	per 0,15%	até 0,08%
ata 0,11%	sobre 0,10%	atee 0,12%	sobre 0,08%
sobre 0,08%	antre 0,08%	sobre 0,05%	entre 0,05%
per 0,07%	contra 0,06%	des 0,05%	desde 0,03%
para 0,07%	ata 0,05%	contra 0,03%	contra 0,02%
antre 0,05%	por 0,04%	ãtre 0,02%	segundo 0,006%
des 0,03%	des 0,011%	segundo 0,01%	após 0,003%
apos 0,02%	apos 0,0006%	ante 0,006%	tras 0,002%
segundo 0,008%			
tras 0,002%			

ここで a の頻度が高いのは、定冠詞女性単数形を含むからで見せかけだけかもしれないが、para と

por, per などについては中世から現代へ頻度の逆転が起きていることがわかる。

註

- 1) アストゥリアス自治州政府とオヴィエド大学が共同で運営しているアストゥリアス言語アカデミーが推進する規範では、この地域を Asturies (スペイン語では Asturias) と言うので、「アストゥリエス語」とするのが厳密であるが、アストゥリアス語の方言によっては語尾が -as になる地域もあることや、スペイン語を通じて主に知られる言語なので、ここでは便宜的に「アストゥリアス語」と呼ぶ。アカデミーの規範は、いくつか方言的な変種の使用を認めている。名詞や動詞の語尾の -es ~-as, -en ~-an などのバリエントもそのなかに含まれる。
- 2) 縮合形とも呼ばれる。正字法の a と à に対応する音は、ポルトガルのポルトガル語では a [e] と à [a] として区別されるが、ブラジルのポルトガル語ではこの対立はない。不定冠詞と de, em の結合形は規範としては義務的ではなく、現代語では堅苦しい文体のみに用いられ、普通は使用しない。結合形の pelo は、語源的には、かつて存在した前置詞 per との結合形である。一方、por と定冠詞の結合形の polo などは、中世語では普通に用いられていたが、現代では口語や方言に残っているだけである。口語レベルでは、他に para の縮約形の pra と o, os, a, as が結合形した prò, pròs, prà, pràs や com + o, os, a, as → cò còs, cà, càs もある (正字法上、特定の綴りは存在しない。アクセント記号はここでは単に母音の弱化が起きないことを示したもの)。また、para の縮約形には pa もあるとする報告もある。
- 3) 州内の地方公共団体には、言語正常化局 Oficina de Normalización Llingüística が設けられているところがあり、伝統地名の復活保全や住所表示、公文書などの二言語化、さらに市役所などでのアストゥリアス語使用の認知促進などに取り組んでいる。北部沿岸都市のヒホン/シジョン市 Gijón/Xixón はこの分野では先行している例で、中央政府の許可が必要である都市名も、すでにスペイン語とアストゥリアス語の双方を正式名称としている。本文ではシジョン市 Xixón とした。一方、州都のオヴィエド市は、アストゥリアス語の推進には消極的であり、アストゥリアス語名の Uviéu は正式名称ではない。また、アストゥリアス自治州はアストゥリアス語では Principáu d'Asturies となる。
- 4) アストゥリアス語では、冠詞や指示詞、形容詞などに中性と呼ばれる文法範疇が存在する。中性形には複数形はない。
- 5) Teyssier は 60 年代以降の頻度辞書や頻度に関する研究に基づいてこの数値を算出している。ポルトガル語の資料は、口語コーパスに基づくが、それ以外の言語については確認していない。
- 6) 統計はポルトガル語、スペイン語、フランス語、イタリア語については Cresti (2005) による。口語コーパスで、付属のプログラムを用い、語彙の頻度を知ることが出来る。コーパスは通言語的な比較を目的としたプロジェクトではあるが、品詞タグの振り方など処理が言語毎に必ずしも同じ条件で行なわれているわけではないという欠点がある。ヨーロッパのロマンス語を対象とするので、中南米のスペイン語やポルトガル語は対象外である。各言語での総語数を 30 万語前後に想定して設計されている。他方、アストゥリアス語の Cuetos (1997) は書き言葉の頻度統計で、もとのコーパスの総語数は約 100 万語である。ガリシア語については頻度資料を参照出来なかった。
- 7) Cresti (2005) の資料ではコーパスの品詞タグはプログラムによって自動的に貼られている。誤差は 2% から 10% 程度生じるという。a はポルトガル語では前置詞の他に定冠詞の女性単数形でもあり、誤差が生じやすい。Teyssier が依拠したポルトガル語の元の資料は品詞の確認などはすべて手作業で行われていた。ただし、それでも de が今回の調査で 42,7% という高い割合を示すことは説明出来ない。
- 8) *Demanda do Santo Graal* は、聖杯物語群の「聖杯の探索」と「アーサー王の死」に対応する部分で 13 世紀に古仏語の散文聖杯物語群から訳されたものである。*Horto de Esposo* は「夫の庭」と訳されるが、15 世紀のキリスト教道徳啓蒙文献である。*História do nobre Vespasiano* 「ウェスパシアヌスの物語」は、もともとは 12 世紀から 13 世紀の古仏語 *Venjançe Nostre Seigneur* のテキストに遡るとされるが、ポルトガル語のテキストはおそらくスペイン語から 15 世紀あたりに訳されたもので 1496 年にリスボンで刊行された。前の 2 つには公開された電子テキストがあるが、最後のものはインキュナブラー刊本から直接入力した。

参考文献

- Alonso, Esther Prieto (2004). *Gramática d'Asturianu (Guía de consulta rápida)*. Uviéu: Trabe.
- Carrasco González, Juan M. (2003⁴). *Manual de iniciación a la lengua portuguesa. 1994'* Barcelona: Ariel.
- Cresti, Emanuela & Massimo Moneglia (2005). *C-ORAL-ROM Integrated Reference Corpora for Spoken Romance Languages*. John Benjamins Publishing Company.
- Cuetos, Fernando & Alfredo Álvarez & José Ramón Alameda (1997). *Diccionariu de frecuencies léxiques del asturianu*. Uviéu: Academia de la Llingua Asturiana.
- Freixeiro Mato, Xosé Ramón (2006). *Manual de Gramática Galega*. Vigo: A Nossa Terra.
- Gramática de la Llingua Asturiana. 3ed.* (2001). Uviéu: Academia de la Llingua Asturiana.
- Normes Ortográfiques. 6ed.* (2005). Uviéu: Academia de la Llingua Asturiana.
- Pena, X. Ramón & Manuel Rosales (1987). *Manual de Galego Urxente*. Vigo: Edicións Xerais de Galicia.
- Teyssier, Paul (2004). *Comprendre les langues romanes. Du français à l'espagnol, au portugais, à l'italien & au roumain*. Paris: Chandeigne.